

'82年第1期 4月~6月 || テーマ『ピンハネ』
 6月は歴史をふり返って考えてみよう。
 夜7時より「喜望の家」集会室にて

夜間学校

釜ヶ崎夜間学校
 西成区萩、茶屋ニハ一六
 電話 六四七・三九四六
 木曜日 夜7時~9時

昔の釜ヶ崎の家々集木会屋、ヨル七時より

古いも若きも 古きも新しきも われらが生きる街

まちは変わったか

古い人は、釜ヶ崎の移り
 変わりについて、よく覚え
 ているかも知れない。

暴動前、あるいは敗戦直

後、本町や南海電車沿いに
 多くのバラックがあったこ
 と、ヨセヤのにぎわい、ネ
 ギ畑のあったことなどなど、

センターについていえば、
 三十六年暴動のあとに四条

辻ロータリーのところには掘
 っ建小屋が立ち、四恩学園
 跡に移り、現在の場所に大
 規模なものが増えてきたこと。
 ドヤは、追い込み、グッ
 ドから、二人部屋など小さ
 く分けたもの、個室、高層
 化へ。

あのメシ屋、あの飲み屋。
 喫茶店はいつごろからふえ
 たのだろうか。

釜はまだ新しいさかいに

という人も、今と昔の釜ヶ
 崎を比べてみると、なにか
 新しい発見があるかも知れ
 ない。

今、住んでる街は、住ん
 てる人間にはその移り変わ
 りは判りにくいものだと思
 う。



このか、人口だけを見て

も、一九五〇年から六五年
 の十五間にたった五千に
 しか増えていないのに、六

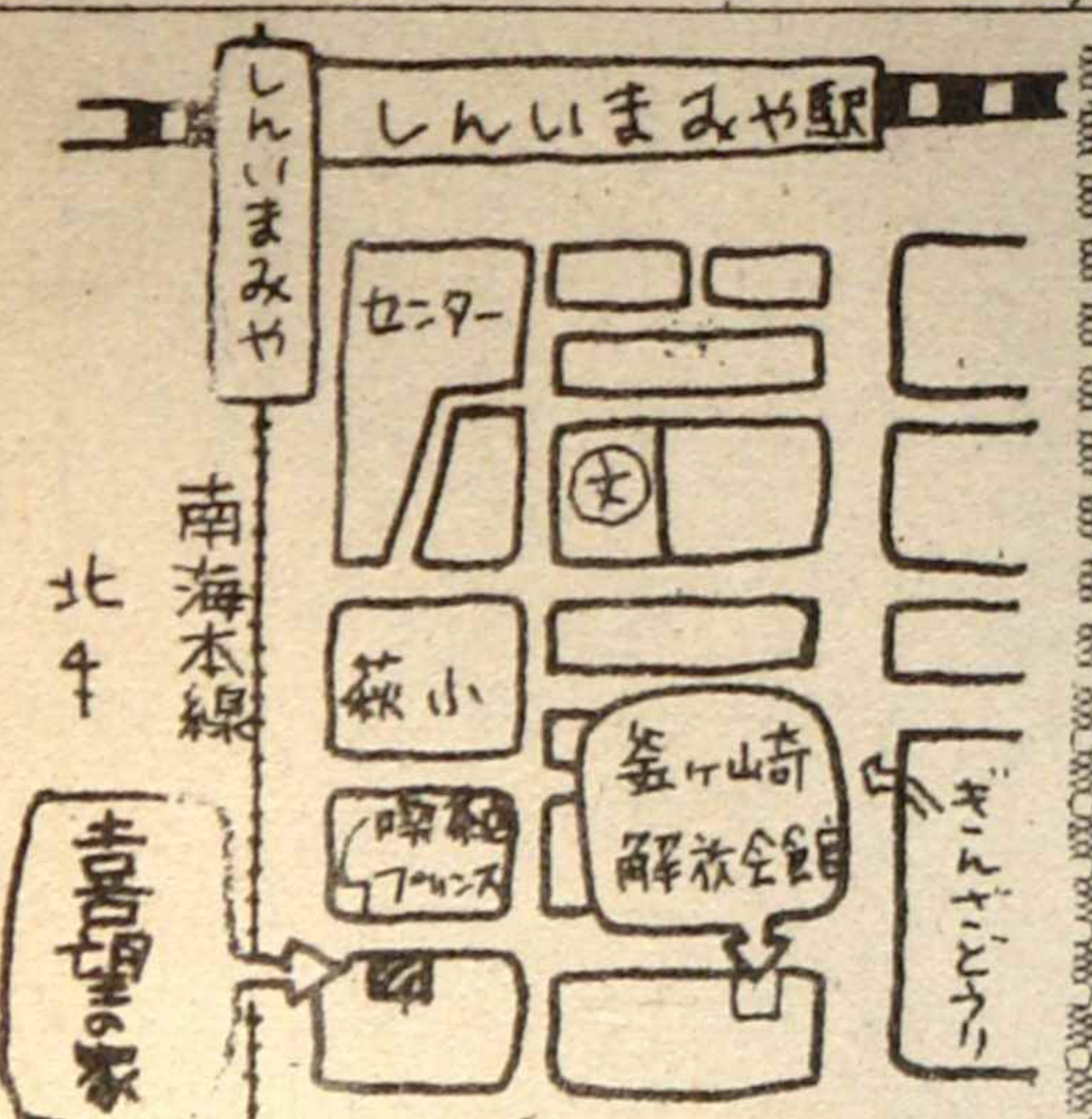
五年から七〇年の五年間に
 は、一挙に五千人も増えて

いる。
 釜の生活、街のよりすも
 大きく変わってきているの
 ではないだろうか。

あたりまえの生活の、世
 間とつながったあたりまえ
 の移り変わり。みんなだた
 しかめあって、前回の仕事
 の移り変わりと重ねあわせ
 て見れば、歴史とのつなが
 りもはっきりするのである。

お知らせ

◎夜間学校文集をつくらう!!
 小説・詩・俳句・短歌など
 なんでも書いて下さい。
 こめ切り 七月末日です。



歴史シリーズキニ夜報告II

仕事を通して歴史

参加して来たか

仕事や釜に来て 思いあたることは?

- A-昭和九年当時十四才で六の銭もろうた。今は、七千三百円だ。
- B-昭和三〇年ぐらいかな。築る工事で五百円や。
- C-昭和二九年から釜に来てるが、仕事はいろいろ種類があつた。ダイヤモンドみがかきや、田植之、稻かりもあつた。
- D-一九六九年五月(四四年)南取安登録で千二百円ぐらい。(東洋ガラス)
- E-七三年七月、四千円
- F-オイルショックの後の越冬炊き出しで、警官

歴史の流れにみる 大工事に行く

昭和20年 敗戦
50 朝鮮戦争(特需景気)

(31) (28)
ダム工事が多い
佐々木ダム完成
黒川ダム建設開始(38年)

工業用電気の需要大

39 (84)
東海道新幹線
東京オリニピック

所得倍増
丹那トンネル
親父はヤクザ

東海工業うめたて
開発造成千里泉北ニュー
タウン

(45)
万国博へひどい手抜き工
事やった(バカ景気)

雑役の仕事がふえる

こうしてみると国家的事業
の大工事に行くということ
で歴史に参加したといえる
でしょう。

「苦しい仕事でこき使われ
るが、出来上がったらうれ
しい。ほこりですな」

仕事にほこりがあるか

「昔は、仕事ができんやつ
たら、なぐられていた。そ
こで仕事をおぼえた」

「今は人のケツついてい
たらいいという感じや」

「昔はそうやなかつた。ひ
とりひとりがかし、かりしと
つた。本当の仕事師がいた。

それ以降サラリーマンくず
れなどが増え、仕事を知ら
ないものが多い。

「昔は、やった仕事にほこ
りがもてたもんや。しかし
万博なんかムチマな工事で
ほこりはもてん」

「ほこりをもたせる仕事も
減つてきてる」
「生きることのほこり、人
間の境地をもつことがなく
なっている」
確かに50年から60年まで
で労働者人口が五千人増え
た(45年)でまた五千人増えてい
ます。仕事の内容も技能工
から雑役が増えています。

今みんなが、仕事にほこり
をもちていないとはいえな
いと思えますが、歴史に参
加しているという意識はも
てなくなっています。

今、仕事の少ない状況の
なかで、仕事にほこりをも
つことは無理かも知れませ
ん

が、歴史を創るのは我々な
のです。力をつけていきましょ